

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4290100082		
法人名	三菱電機ライフサービス株式会社		
事業所名	長崎ケアハートガーデン グループホーム小ヶ倉 1F		
所在地	長崎県長崎市小ヶ倉3丁目7346-27		
自己評価作成日	令和元年11月3日	評価結果市町村受理日	令和2年3月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	-----------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	令和2年1月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所内はバリアフリーに配慮しておりゆったりとした空間作りと解放感のある共用スペースがありUSENを設置しており、場面、場面に合った曲を流したり、リラックスした雰囲気になるよう工夫しています。また、各所に消毒液や空気清浄機を設置しており、ウイルス等、汚染に対し配慮しています。職員はセンター方式を採用しており利用者の生活歴、表情や仕草、言葉を記録に残しその人らしい生活を送れるよう支援をしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所では、センター方式のシートや“ひもときシート”を活用することにより、利用者本人の思いや一日の過ごし方について聞き取った情報の共有を図っている。利用者のつぶやいた言葉に対する考察を丁寧に実施していることは、特筆すべきである。更にこれを介護計画に繋げており、理念である「寄り添うケア」が実現している。運営推進会議は地域からの参加者が多く、質問が多数出ている他、協力医による講話を盛り込む等出席者の関心を高める工夫がある。医療面では、利用者の意思を尊重し、かかりつけ医を継続しており、協力医との連携も万全な体制である。事業所では、職員の資格取得を推進しており、教育係の配置や定期的な個別面談の実施により、職員を育てる体制が整っている。利用者がその人らしく暮らしていけるよう職員全員で取り組んでいる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の共有と意識づけができるよう、毎朝、申し送り時に職員が理念の唱和を行い、業務に取り組んでいます。	職員の採用時には、ホーム長が理念について説明を行っている。入社後も、職員を育成していく体制がある。職員は理念を毎朝唱和し、共有を図っている。利用者ができる事・できない事を見極め、家族にも協力を仰ぎ、利用者が自立しながら生活できるように理念の具現化に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	定期的に地域の保育園との交流を行ったり地域ボランティアの方に行事に参加して頂いたり、交流ができるよう取り組んでいます。	自治会に加入しており、自治会長より情報を得ている。敬老会はボランティアによるフラダンスやマジックショー、音楽バンドの演奏で祝い、利用者の楽しみとなっている。保育園児や職場体験の中学生との触れ合いの機会がある一方地区の祭りには、職員が参加し双方向の交流を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の交番の方に防犯訓練に参加して頂いたり、民生委員、自治会長に火災訓練に参加して頂いたりしている。小ヶ倉中学校の職場体験も受け入れを行い、認知症の方への理解を深めてもらう様に取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を通して、サービスの取り組み状況を報告行い。意見交換や助言を頂いたり、かかりつけ医によるアドバイスなども受けサービス向上に活かしている。	併設の法人の施設と合同で開催している。メンバーは、自治会長や民生委員、市職員や協力医などである。利用者状況や協力医による看取りの講話、防犯対策や時事問題など議題の多彩さと、有意義な意見交換の様子が議事録からわかる。看取りや感染症予防など支援に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議では、介護保険課の方に出席して頂き、事業所の実情、取り組みを積極的に伝えながら、相談、助言を頂いている。	介護更新事務手続きは、管理者が窓口を訪れ行っている。また、市担当課に不明点を尋ねたり、情報や助言を得るなど日頃より連携を図っている。行政からの研修案内は積極的に受講している。介護相談員を毎年受け入れ利用者の情報を共有するなど、協力関係を築くよう努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠に関しては夜間帯以外は行っていない。身体拘束委員会もあり身体拘束はしないケアに取り組んでいる。	身体拘束廃止指針があり、委員会を3ヶ月毎に開催している。“虐待の芽”のチェックリストを活用し、虐待防止に向けた意識を高めている。職員が気づいてない時は、ホーム長より注意喚起がある。転倒防止のための赤外線センサーは、家族に同意を得ており、状況を見守っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修などがある時は職員に参加してもらい、議事録にて報告するとともに、ミーティングで再度確認しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修や社内研修(ミーティング)時に学ぶ機会を作っています。参加できないスタッフにも回覧研修を実施し、活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にご利用者様・ご家族に説明し、了承を得た上でサインを頂き、質問があれば口頭にて説明を行い理解して頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議議事録、毎月のお便りを発行し、面会時はコミュニケーションをとり、日頃からの意見、要望をお聞きし、運営に反映させる様にしている。	殆どの家族は、月1、2回の頻度で面会に訪れている。その際、職員は家族から要望を聞き取っている。外出や食事に関する要望が出ており、要望に添った支援を行っている事例がある。聞き取った内容は申し送りノートに記載し、共有を図っている。利用者のつぶやいた一言にも着目し、本人の気持ちに寄り添う支援を行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議でも常に意見要望を聞く機会を設け、反映させている。	職員の採用時には、教育係が付く仕組みがある。職員の自己評価の制度があり、自身の課題や目標を掲げ、管理者との面談の際に、目標の達成度を確認し合っており、職員を育てる体制が整っていることが確認できる。行事は職員自らが企画立案し、行っている。有休の取得について推奨しており、労働環境への配慮が窺える。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年度毎に自己評価を行い面談を行って、目標、要望、やりがいなどを聞き、向上心を持って働けるよう、職場環境、条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務調整を行い、研修を受けやすい環境を整え、研修内容については勉強会で報告し、他スタッフとも共有できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会の勉強会の研修に参加したり、レクレーションに参加したりして交流をはかり、意見交換を行い、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	コミュニケーションを出来るだけとり、ご本人が今、何に困っているのか、不安なこと、要望を引き出し、ご本人様に安心して頂けるように関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族等と会話をする中で、困っている事、不安な事、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族には、面会の際に必ず近況報告をすると共に、今現在、家族は何を支援してほしいのかを見極めサービス内容を支援できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の出来る事、出来ない事を把握し、職員と一緒にお手伝い等を行って頂き、共に支えあっていく関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人様の気分の変化などをくみ取り、ご家族に面会の回数を増やして頂いたり、一緒に数時間でも自宅に帰って頂いたり、共に支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族と一緒に馴染みの美容室に行かれたり、日曜日にはミサに行かれたり、ご本人が大切にしてきた関係が途切れないよう支援に努める。	日常的に、家族や知人が訪ねて来ている。家族と共に、教会のミサに毎週出掛ける利用者がいる。法事や墓参り、また旅行や美容室にも家族の協力のもと、出掛けている。新聞を購読している人や携帯を持っている人もいて、入居前の習慣や馴染みの関係が途切れないよう支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲がいい利用者同士は隣に座って頂いて、会話を楽しんで頂いたり、洗濯物をご利用者と一緒に出来る様に環境づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、入院先にお見舞いに行ったり、ご本人、家族の経過をフォローしながら、相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃からコミュニケーションの中で、一人ひとりの希望や思いを聞き、意向の把握に努め、ご家族と相談しながら本人本位に検討している。	入居時に、家族に暮らしの情報等を記入してもらい、生活歴を把握している。事業所では、“ひもときシート”を活用し、利用者の思いを把握し、毎日の支援に生かすよう取り組んでいる。誕生日の過ごし方や着る服は利用者本人が選んでいる他、買い物や外出の希望を個別に叶えており、本人本位の支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時にセンター方式のシートをご家族に記入して頂きご本人様との会話の中でも生活歴や暮らし方の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式のD4シートに記入を行うことで、一人ひとりの1日の過ごし方。心身状態の変化の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様との日々の会話の中や、言動にも手がかりを見つけ、ご家族面会時などに意見やアイデアも頂き、現状に即した介護計画を作成している。	契約時、前施設や家族の情報を得て、暫定プランを作成し、短期6ヶ月、長期1年の計画に繋げている。センター方式を用い、利用者の言動や職員の考察を詳細に記している。実践した項目は、チェック表に記録し、見直しに繋げている。家族の意見は面会時や電話で尋ね、計画に反映し、利用者、家族に同意を得て計画に沿って支援している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ケアの実践については記録に残しており、利用者の行動、言動の意味に対しては、気づきやその時の気持ちを、日々の記録に残し、情報を共有し介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様の状況、変化に対しては、ご家族の状況も踏まえながら、出来る範囲内で柔軟なサービス提供に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の中学生、保育園児との交流の中で、心身の力を発揮しながら、安全で豊かな暮らしを楽しんで頂けるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は入所前より、かかっておられた主治医の往診を希望される方には、かかりつけ医との良好な関係を続けられるよう支援しています。また、紹介する主治医も数名おり、ご家族との相談のうえ適切な医療を受けられるよう支援している。	入居前のかかりつけ医を尊重しており、受診は家族が対応している。利用者の体調を記録した書面を家族に渡し、結果は家族から聞き取ったことをノートに記載している。かかりつけ医の往診もある他、希望があれば、協力医や歯科の往診も受けることができる。夜間緊急時のマニュアルを備え、24時間の医療連携体制を整備している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	申し送りや看護日誌などに看護師との情報の共有を行っており、医療に関しては、看護師に相談し、主治医の指示のもと支援を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	複数の医療関係と連携しており、入院された場合、面会時病院関係者（医療ソーシャルワーカー等）と情報交換を行い、早期に退院に向けての相談に努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所の段階で重度化した場合、終末期については、ホームの方針を伝えている。重度化した場合は、早い段階で、今後の対応について主治医も含めて、ご家族の意向も踏まえながらホームが出来る事を十分に説明し、支援に取り組んでいる。	契約時、“重度化した場合の対応に係る指針”を基に、事業所が終末期の支援を行うことを家族に説明している。利用者の状況変化に応じ、主治医から点滴や胃瘻など細かい説明があり、家族の意思確認を同意書で得ている。今年度、看取り支援の事例がある。職員は、本人・家族が安心して終末期を迎えられるようチームで取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命、応急のマニュアル本を設置しており、いつでも見れる状態にある。利用者各自の急変時の対応をスタッフがいつでも確認できる場所に配置してある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	災害対策として、災害対策マニュアルとの配置と緊急連絡網を作っている。災害時の緊急避難場所として、月のいずれかを1回通報訓練・避難誘導訓練・消火器訓練も行っている。	年2回、消防署立会いで夜間想定火災訓練を併設の施設と合同で実施しており、訓練後の検証もしている。毎月の自主火災訓練の他、半年毎に自然災害訓練を行い、利用者の避難誘導を行っている。備蓄品を備え、居室には非常持出のリュックがある。ただし、持出用としての利用者情報の整備はこれからである。	災害時に他所へ避難した際、利用者が適切な医療を受けることができるよう、非常持出用として利用者の情報を整備することに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様の生活歴を知ったうえで、一人ひとりの人格を尊重し、場合によっては、周りに人がいない所で話するなど、プライバシーへの配慮を行っています。	プライバシー保護に関する内部研修を実施している。職員は、利用者には敬語で接すること、また赤ちゃん言葉を使わないことを心掛けている。職員が、利用者の居室に入る際は、必ずノックしている。利用者の介護等の情報を話す際は、他に人がいない場所で行っており、プライバシーに配慮した対応を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の会話の中で、思いや希望を聞いたり、特に食事に関しては、パンとご飯など、ご利用者様が選択できる場面を作っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、ご利用者様の意見を確認しながら、一人ひとりのペースで過ごして頂けるように支援していきます。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容室に来て頂き、ヘアカラー、パーマなど、その人らしいおしゃれができる様に支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者様、スタッフと一緒に食事の準備、盛り付け、配膳を行っています。食事の席では、ご利用者様とスタッフが同じテーブルで、楽しく食事ができる雰囲気作りを心がけています。	入居前に調査を行い、アレルギーの有無を把握すると共に、やわらか食も提供している。誕生日にはケーキ、正月にはおせちとお屠蘇、敬老会の料理といった行事食の他、外食に出掛けるなど食について充実している。調理が得意な利用者は、野菜の下ごしらえを手伝っている。利用者の笑顔から食事が楽しい時間となっていることが窺える。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取をチェック表へ記入することで、一人ひとりの摂取量の確認ができ、状態に応じた食事形態を提供支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアへの声掛け、口腔内確認で口腔ケアの介助支援を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表に記入を行いながら、排泄パターンの把握に努め、訴えがない方も、トイレでの排泄が出来るように支援している。	日中は、トイレでの排泄を基本としている。夜のみ使用するポータブルトイレには、カバーを掛けている。チェックリストにより、個別のリズムを把握し、誘導を行っている。利用者のパッドの大きさを月1回のケース会議で個別に検討を重ねており、自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	おやつを水分の多い果物やゼリーを作って提供したり、個別対応にて水分補給を、ご家族が、昔から飲んでいたヤクルト等を持ってきて下さったりしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的には、2日に1回は入って頂くようにしていますが、希望されるときは毎日だったり、その時間に合わせ入浴を実施し、お湯も毎回張替えることで、誰もが一番風呂で入れるようにしています。	入浴は、週2、3回の頻度で入っている。車椅子の利用者であっても浴槽に浸かることができるよう支援している。同性介助の要望に対応している他、浴槽の湯は毎回入れ替えている。また、菖蒲湯の足浴を行っており、入浴が気持ちよく楽しいものとなるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は、リビングや居室で好きなように過ごして頂いたり、その時々状況に応じて、レクリエーションに参加したり、個別の取り組みを行ったり、居室で休息をしていただいたりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報で働きがわかるものを各利用者様のファイルに保管確認し、職員が確認できるように整えています。ご利用者様の薬の追加、変更等があった時には、申し送りにて伝達しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	センター方式を活用し、ご利用者様の生活歴、できる事、できない事を情報共有し、ご利用者様が役割を持って張り合いや喜びのある生活ができるように支援していきます。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は、出来るだけ散歩に出かける様にしている。花見や、遠足、外食など、少し遠い所へもドライブに出かけ、気分転換をして頂いている。ご利用者の希望に添える様に、ご家族にも協力して頂いている。	日常では、天気の良い日には、事業所の周囲を散歩し、海を眺めたりしている。花の季節には、おやつ持参で桜やチューリップ、コスモスを見に出掛けている。近所のレストランで外食することもある。外出担当の職員を決めており、行先の選定等を計画的に行い、利用者に喜んでもらえるよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在は、お金を所持されている方は、いらっしやらない。希望があれば添うような支援はしたい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者様宛てに届いた郵便物を職員よりお渡ししたり、ご利用者様の希望があれば、電話でのやり取りができる支援体制を整えています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・四季の花や野菜を玄関の農園に植えたり、リビングに絵を飾る等している。 ・全ての窓にフィルムを貼り、室内の温度を調整すると共に激しい日光の光を遮断している。	絵画を配したリビングや廊下は、家庭的で落ち着いた雰囲気がある。貼絵や飾りつけで季節感を採り入れている。リビングでは、職員と談笑をする利用者の様子が窺える。家具には、転倒防止の補強を施している他、ガラスフィルムで直射日光を遮り、快適な空間を保っている。職員による毎日の清掃で、清潔な共有空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの座席は、気の合った方同士が、一緒に座れる様に、席を考え工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前より馴染みのある物、使い慣れた家具など出来るだけ、持って来て頂き、思い思いに過ごせる様にしている。	花の名前がついた居室は親しみやすく、家具の持ち込みは自由であり、利用者が使い慣れたベッドや箆笥テレビを持ち込んでいる。仏壇や家族写真、化粧品や櫛を置き、従来の生活スタイルが垣間見れる居室である。カレンダーを掛け、家族の訪問を心待ちにしている利用者もいる。職員による清掃で、臭気もなく清潔な居室である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来る事はして頂き、出来ない所はお手伝いしながら、安全かつ自立した生活に近づける様、工夫している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4290100082		
法人名	三菱電機ライフサービス株式会社		
事業所名	長崎ケアハートガーデン グループホーム小ヶ倉 2F		
所在地	長崎県長崎市小ヶ倉3丁目7346-27		
自己評価作成日	令和元年11月3日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	-----------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所内はバリアフリーに配慮しておりゆったりとした空間作りと解放感のある共用スペースがありUSENを設置しており、場面、場面に合った曲を流したり、リラックスした雰囲気になるよう工夫しています。また、各所に消毒液や空気清浄機を設置しており、ウイルス等、汚染に対し配慮しています。職員はセンター方式を採用しており利用者の生活歴、表情や仕草、言葉を記録に残しその人らしい生活を送れるよう支援をしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の共有と意識づけができるよう、毎朝、申し送り時に職員が理念の唱和を行い、業務に取り組んでいます。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	定期的に地域の保育園との交流を行ったり地域ボランティアの方に行事に参加して頂いたり、交流ができるよう取り組んでいます。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の交番の方に防犯訓練に参加して頂いたり、民生委員、自治会長に火災訓練に参加して頂いたりしている。小ヶ倉中学校の職場体験も受け入れを行い、認知症の方への理解を深めてもらう様に取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を通して、サービスの取り組み状況を報告行い。意見交換や助言を頂いたり、かかりつけ医によるアドバイスなども受けサービス向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議では、介護保険課の方に出席して頂き、事業所の実情、取り組みを積極的に伝えながら、相談、助言を頂いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠に関しては夜間帯以外は行っていない。身体拘束委員会もあり身体拘束はしないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	研修などがある時は職員に参加してもらい、議事録にて報告するとともに、ミーティングで再度確認しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修や社内研修(ミーティング)時に学ぶ機会を作っています。参加できないスタッフにも回覧研修を実施し、活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にご利用者様・ご家族に説明し、了承を得た上でサインを頂き、質問があれば口頭にて説明を行い理解して頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議議事録、毎月のお便りを発行し、面会時はコミュニケーションをとり、日頃からの意見、要望をお聞きし、運営に反映させる様にしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議でも、常に意見要望を聞く機会を設け、反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年度毎に自己評価を行い面談を行って、目標、要望、やりがいなどを聞き、向上心を持って働けるよう、職場環境、条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務調整を行い、研修を受けやすい環境を整え、研修内容については勉強会で報告し、他スタッフとも共有できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会の勉強会の研修に参加したり、レクレーションに参加したりして交流をはかり、意見交換を行い、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	コミュニケーションを出来るだけとり、ご本人が今、何に困っているのか、不安なこと、要望を引き出し、ご本人様に安心して頂けるように関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族等と会話をする中で、困っている事、不安な事、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族には、面会の際に必ず近況報告をすると共に、今現在、家族は何を支援してほしいのかを見極めサービス内容を支援できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の出来る事、出来ない事を把握し、職員と一緒にお手伝い等を行って頂き、共に支えあっていく関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人様の気分の変化などをくみ取り、ご家族に面会の回数を増やして頂いたり、一緒に数時間でも自宅に帰って頂いたり、共に支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族と一緒に馴染みの美容室に行かれたり、ご本人が大切にしてきた関係が途切れないよう支援に努める。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲がいい利用者同士は隣に座って頂いて、会話を楽しんで頂いたり、洗濯物をご利用者と一緒に出来る様に環境づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、入院先にお見舞いに行ったり、ご本人、家族の経過をフォローしながら、相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃からコミュニケーションの中で、一人ひとりの希望や思いを聞き、意向の把握に努め、ご家族と相談しながら本人本位に検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時にセンター方式のシートを、ご家族に記入して頂きご本人様との会話の中でも、生活歴や暮らし方の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式のD4シートに記入を行うことで、一人ひとりの1日の過ごし方。心身状態の変化の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様との日々の会話の中や、言動にも手がかりを見つけ、ご家族面会時などに意見やアイデアも頂き、現状に即した介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ケアの実践については記録に残しており、利用者の行動、言動の意味に対しては、気づきやその時の気持ちを、日々の記録に残し、情報を共有し介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様の状況、変化に対しては、ご家族の状況も踏まえながら、出来る範囲内で柔軟なサービス提供に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の中学生、保育園児との交流の中で、心身の力を発揮しながら、安全で豊かな暮らしを楽しんで頂けるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は入所前より、かかっておられた主治医の往診を希望される方には、かかりつけ医との良好な関係を続けられるよう支援しています。また、紹介する主治医も数名おり、ご家族との相談のうえ適切な医療を受けられるよう支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	申し送りや看護日誌などに看護師との情報の共有を行っており、医療に関しては、看護師に相談し、主治医の指示のもと支援を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	複数の医療関係と連携しており、入院された場合、面会時病院関係者（医療ソーシャルワーカー等）と情報交換を行い、早期に退院に向けての相談に努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所の段階で重度化した場合、終末期については、ホームの方針を伝えている。重度化した場合は、早い段階で、今後の対応について主治医も含めて、ご家族の意向も踏まえながらホームが出来る事を十分に説明し、支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命、応急のマニュアル本を設置しており、いつでも見れる状態にある。利用者各自の急変時の対応をスタッフがいつでも確認できる場所に配置してある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	災害対策として、災害対策マニュアルとの配置と緊急連絡網を作っている。災害時の緊急避難場所として、月のいずれかを1回通報訓練・避難誘導訓練・消火器訓練も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様の生活歴を知ったうえで、一人ひとりの人格を尊重し、場合によっては、周りに人がいない所で話するなど、プライバシーへの配慮を行っています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の会話の中で、思いや希望を聞いたり、特に食事に関しては、パンとご飯など、ご利用者様が選択できる場面を作っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、ご利用者様の意見を確認しながら、一人ひとりのペースで過ごして頂けるように支援していきます。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容室に来て頂き、ヘアカラー、パーマなど、その人らしいおしゃれができる様に支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者様、スタッフと一緒に食事の準備、盛り付け、配膳を行っています。食事の席では、ご利用者様とスタッフが同じテーブルで、楽しく食事ができる雰囲気作りを心がけています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取をチェック表へ記入することで、一人ひとりの摂取量の確認ができ、状態に応じた食事形態を提供支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアへの声掛け、口腔内確認で口腔ケアの介助支援を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表に記入を行いながら、排泄パターンの把握に努め、訴えがない方も、トイレでの排泄が出来るように支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	おやつを水分の多い果物やゼリーを作って提供したり、個別対応にて水分補給を、ご家族が、昔から飲んでいたヤクルト等を持ってきて下さったりしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的には、2日に1回は入って頂くようにしていますが、希望されるときは毎日だったり、その時間に合わせ入浴を実施し、お湯も毎回張替えることで、誰もが一番風呂で入れるようにしています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は、リビングや居室で好きなように過ごして頂いたり、その時々状況に応じて、レクリエーションに参加したり、個別の取り組みを行ったり、居室で休息をしていただいたりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報で働きがわかるものを各利用者様のファイルに保管確認し、職員が確認できるように整えています。ご利用者様の薬の追加、変更等があった時には、申し送りにて伝達しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	センター方式を活用し、ご利用者様の生活歴、できる事、できない事を情報共有し、ご利用者様が役割を持って張り合いや喜びのある生活ができるように支援していきます。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は、出来るだけ散歩に出かける様にしている。花見や、遠足、外食など、少し遠い所へもドライブに出かけ、気分転換をして頂いている。ご利用者の希望に添える様に、ご家族にも協力して頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在は、お金を所持されている方は、いらっしやらない。希望があれば添うような支援はしたい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者様宛てに届いた郵便物を職員よりお渡ししたり、ご利用者様の希望があれば、電話でのやり取りができる支援体制を整えています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・四季の花や野菜を玄関の農園に植えたり、リビングに絵を飾る等している。 ・全ての窓にフィルムを貼り、室内の温度を調整すると共に激しい日光の光を遮断している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの座席は、気の合った方同士が、一緒に座れる様に、席を考え工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前より馴染みのある物、使い慣れた家具など出来るだけ、持って来て頂き、思い思いに過ごせる様にしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来る事はして頂き、出来ない所はお手伝いしながら、安全かつ自立した生活に近づける様、工夫している。		